

記 事

◎第2回理事会（昭.26.7.9.）出席者：大西会長，立花副会長，富樫，本間，仁杉，高畑，今岡，米元，丸安，樺島の各理事，協議事項：（1）日本工業総覧（日本工学会）の学会担当者選定については本間理事研究のこと，（2）日発記念基金は約5種類位の株式とすることも考えられるので会長，副会長，経理部長研究すること。（3）講習会は原案通り開催し，前刷はダムと橋梁2冊に分け各100円程度とする。又講習会費400円，見学会費200円とする。（4）日本工学会 Japan Science Review 原稿は編集委員会の手配（5）日本学術会議選挙方法に関する意見としては管理委員会を強化し有権者を厳選する，選挙運動期間を短かくする，立候補者の資格を制限する等。（6）米工業教育研究集会の米人教授の講演会を開催することは田中豊，本間仁，平井敦の3教授に一任することとする。（7）日本工学会大会準備会には丸安理事出席する。（8）会費滞納者については本人の意向を丁寧に問合せの上除名手続をとること。（9）土木工学叢書契約は技報堂と取極めること。（10）農林省両総用水水利事業委員推薦方については釘宮馨氏を推薦すること。

◎各種委員会

① 第2回法規委員会（昭.26.7.5）出席者：稲浦委員長，西畑，種谷，兵藤，今井，西松，北村，富田（代当銀），宮沢（代横田），森の各委員，落合幹事，協議事項：落合幹事小委員会としての経過を説明し，原案について種々の協議の結果，次の事項を再検討し，改案の上下委員会での研究のこと。（a）法の趣旨は技術の向上を目的とし，土木構造物の設計監督のみの所謂 consultant の資格を得るためであつて，工事の施工は建設業法で規定すること，従つて第28，を削除する。（b）第39（国その他の特例）を削除する，（c）工務士の業務を明確に規定する即ち一定規模以上（質か量かなかなか困難である）の建設工事の設計監督と明示すること。（d）河川，道路，鉄道等部門をハッキリ分けること。（e）工務士は弁護士，公認会計士のようにな高級なものとし，1級，2級等に分けないこと。（f）工務士の設計であることの確認法を定め，主務大臣とは単数なること。（g）電気工作物等は具体的に指示すること。（h）試験は学力試験と実地試験との2試験とする。（i）その他逐条審議し字句の訂正等を行う。

② 第2回編集委員会（昭.26.7.20）出席者：本間，

米元正副委員長外委員，協議事項：（1）論文審査報告，（2）新論文審査委員の決定，（3）第36巻第9号登載論文を下記の通り決定した。福田武雄：土木用語について，安部清孝・手塚薫：腹材変形の影響を考慮に入れた桁としての等断面平行弦単純トラス橋の強制振動，丹羽義次：揚圧力に関する研究，村上正：十字材系としてのラーメンの解法，山崎徳也：不定全剛結ラーメンの解法に応用したる撓角分配法，永井荘七郎：ジェーン台風による大阪湾諸港に於ける異常潮位について，那須信治・窪田吾郎：構築物の基礎傾斜計について，片平信貴：米国の道路行政について，

（4）原稿，ニュース，抄録等の依頼先決定

◎その他

① 日本工学会（a）JSR 編集会議（本間理事出席，昭.26.7.6）協議事項：当学会に割当てられた優秀論文を2篇 8.31 までに提出すること，論文提出要領に別途通知のこと，日本工業技術総覧編集主任は本間理事が選任せられ土木学会担当者は目下研究中

（b）工学会大会準備第1回打合せ（昭.26.7.10）丸安理事出席，協議事項：各学会に参加方勧誘のため工学会案を作成することとし，その大綱を次のようにする。期日：4月末～5月初部門別をきめて申込ませる（学会経由，）前刷は所属学会で行う，委員会（会計講演，会場，印刷）を設置すること。申込締切を12月15日とする。

（c）工学会大会準備第2回打合せ（昭.26.7.28）米元理事出席，協議事項：黒田理事今までの経過報告後協議の結果，簡単に同意する人少なく，よく案を練り8月中旬工学会理事会を開催し，改めて案を作り予算の目安を立て，準備会を開き各学協会に参加を勧誘すること。

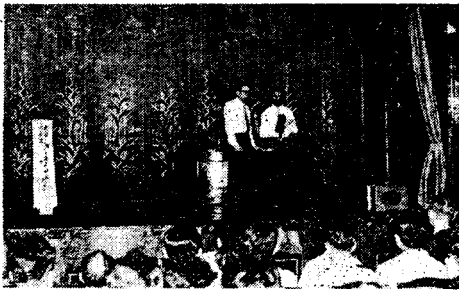
② 日本学術会議第5部在京会員と協会との懇談（昭.26.7.26）米元理事出席，協議事項：第5部会の活動状況を説明し，各機関からの意見をきく目的であつて，（i）大山第5部会長の説明，（ii）研究成果実用化委員会の説明（中原会員）（iii）国際会議について JSC と各学協会との連絡要望，（iv）研究公務員の待遇改善問題（大塚氏）（v）昨年の研究業績審査に対する質問（日本化学会永井氏），それに対する応答（真島会員）（vi）学協会から色々注文を出して貰いたい（大塚氏）例：JSC の調査目的を判るように照会して貰いたい。学会の課税軽減について，文部省助成費増額要望等々。

米國工業教育使節特別講演会

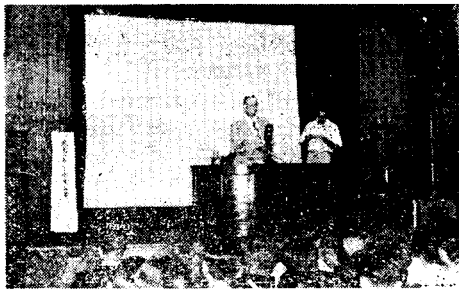
文部省では総司令部経済科学局の好意により American Society for Engineering Education から派遣された 15 名の専門家を迎えて今夏各地において大学の教員、研究者及び会社工場の経営者技術者の参加を得て研究集会を開催しているの、この好機に土木建築関係教授の特別講演会を建築学会、水道協会、衛生工業協会と共催で下記の通り開催した。[聴講者約 450 名で堂にあふれるばかりの盛況であつた。

講演: New Developments in Building Materials in the United States: Prof. A.G.H. Dietz

写真—1 Prof. Dietz



写真—3 Prof. Steel



Realism and Structural Theory: Prof. A.L. Miller

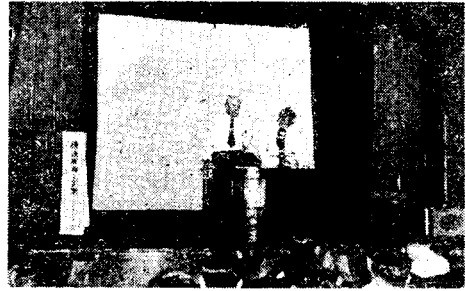
Sanitary Engineering in the United States: Prof. E.W. Steel

日時: 昭和 26 年 7 月 19 日(木) 14 時~17.30 時

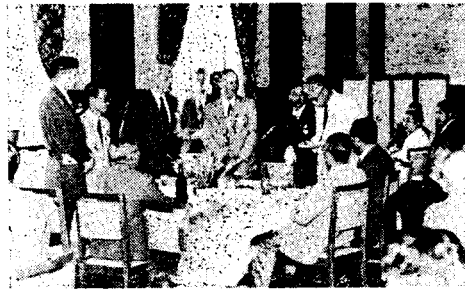
会場: 日本工業クラブ大講堂

講演終了後有志の Tea party を同クラブ 3 階大食堂で開催、参加者約 100 名、田中前会長(大西会長不在のため)伊藤建築学会長等の挨拶に次いで、河口水道協会副会長、広瀬衛生工業協会々長、阿部美樹志、内藤多仲の諸氏のテーブルスピーチの後盛會裡に散

写真—2 Prof. Miller



写真—4 Tea Party において田中前会長から記念品を贈呈



会。(3 氏の略歴下の如し)

講演者略歴

○Massachusetts Institute of Technology (MIT) 建築及び構造工学教授 Albert George Henry Dietz 氏

Dietz 教授は Miami 大学の Liberal Art School を卒業し引きつゞき MIT で工学の研究をして S.B. S.M. 及び Sc.D. の学位を得た。Dietz 博士は製鋼業及び土建業界に活躍せられた。博士は又林産研究所及び科学研究振興室で研究をされた。博士は A.S.T. M., プラスティック工業会, プラスティック学会及び林産研究学会等 11 の専門学会の現役員である。博士は laminate, plastic 及びその他の建築材料に関する数種の著書及び数多の論文を出しておられる。

○Washington 大学 (Seattle) 土木工学部力学及び構造工学教授 Alfred Lawrence Miller 氏(B.S., C.E)

Miller 教授は現在教鞭を執っておられる大学の出身である。同大学在学中博士は彼の有名な Washington 大学短艇部の選手であつた。大学卒業後博士は 3 年間 Boeing 航空機会社で Stress Analyst, Project Engineer 及び購買係員等をつぎつぎに経験された。Miller 教授は構造工学界切つての異彩を放つた教育家であり且つ太平洋沿岸を通じ技術家として頭角を現わしている。博士は合衆国沿岸に対する工学的地震学及び米國政府商務省の測地部に関する諮問委員会の一員であつて且つ耐震構造物の一權威である。

○Texas 大学衛生工学教授 Ernest William Steel

氏 (C.E.)

Steel 教授は衛生工学界の秀でた教育家であり且つ著名な顧問技師である。教授はかの有名な「水道と下水」と題する書物の著者として広く知られておる。恐らくこの本は米国に於ける一般実践衛生工学の教科書として最も広く用いられている。教授はまた合衆国公衆衛生局の顧問であつて、これまで合衆国内は勿論外国に於ても数多くの重要な技術的仕事を成就せられた。

支部だより

(1) 東北支部では本年度第1回講演会を7月21日開催

聴講者 150 数名

講演：アメリカの港湾

運輸省第2港湾建設部 比田 正君

幻燈：アメリカの機械化保線作業

国鉄保線課 枝松 敏郎君

映画：八戸港沈船防波堤 その他

(2) 中部支部では7月7日岐阜市公会堂で第1回講演と映画の会を開催し聴講者約400名の盛況であつた。

(i) 支部長挨拶 (立神支部長代理奥田秋夫君)

土木とは Civil と言われる如くその技術向上の如何は即ち文化程度の如何を表すものであつて、土木技術は人間文化生活の根底を築き上げる所の一聯の文化建設的事業であつて、その意味合で、本日行われる諸講演の道路、港湾、鉄道、河川等は一見無関係のように思われるが、この Civil としての技術に一環性があり、現今平和文化国家建設を標榜している時、吾人の使命は重且つ大である、特に敗戦後の国勢に鑑み、国土と人口の問題を解決すべく国土綜合開発法が昨年発布せられ、こゝに一段と大きな使命を感じ建設週間に当りその自覚を深くする旨の挨拶があつた。

(ii) 長良橋の歴史と工事 岐阜県土木部長 鈴木清一君 明治時代の木桁橋から現在の長良橋 (プラットトラス橋、大正2年~4年5月竣工17万円) に至る経過を述べ、現在橋は近來の交通量、応力的、観光効果並びに都市発展上の要素等から考案して架換の機運に到達した原因の詳細説明があり、更に改築に当り考えられた各種橋梁形式の常識的説明を加え、結論として continuous deck plate girder 案を採用したいと希望した。

(iii) 最近のアメリカ事情 名古屋港務所長 鈴木誠一氏は25年11月~26年1月の3ヶ月のアメリカ

視察より得た米国在住邦人の活躍状況、風俗、自動車建物、生活様式等の多方面に亘る経験及び観察を述べて聴衆を喜ばせた。

(iv) 岐阜駅の改良 国鉄岐阜工事事務所 溝口 博君 明治年間から現在位置に岐阜駅が設けられるまでの沿革に次いで同駅で取扱う客貨の統計的資料を説明し現在の設備ではこれを消化することができないので改良計画を AB2 案樹て、目下研究中であるが、本屋、広場、高山線ホーム、上屋等の全般的改良を28年度完成を期していると述べた。

(v) 木曾川の洪水予報 中部地建調査課長 佐藤 央君 全国的に洪水予報網が強化されるに至つた経緯を述べ、河川と洪水との関係につき一般的説明に入り、次で木曾川の特性等不連続線図、総雨量分布図、洪水平均到達時間図等によつて説明し、洪水予報の今後の問題に対して示唆を与えられた。

講演終了後次のような映画を公開した。

- (1) 関門トンネル、(2) 防風林、
- (3) ニューヨーク港、(4) アメリカ国立公園、
- (5) ロックフェラーセンター

(3) 中部支部では8月12日第4回見学会を開催し志摩国立公園を (近畿日鉄あつ旋) 見学した。

(4) 中部支部では10月17日支部大会を開催するについては会長に是非出席方照会があつた。

大会次第

10月17日 (金沢市公会堂)

支部長挨拶

土木学会長挨拶

講演 (福井、富山、石川各県土木部長、その他1名)

学術講演 (1) 名大又は地建より1名

(2) AEコンクリートの施工 中部電力平岡建設所長

(3) 宮川総合開発について 三重県

(4) 菱形鋼桁 岐阜大学高橋教授

懇親会 湯涌温泉 (1泊)

10月18日 兼六公園 御影橋架換、手取川改修、辰口橋架換等の諸工事を見学

(5) 中国、四国支部では幹事長移動の報告があつた。

(旧) 境 隆雄 (関東地建へ転任)

(新) 小林真一 (中四地建工務部長)

(6) 中国、四国支部常議員1名欠員中の所、下記の人の推薦があつた。

徳島大学教授 大野 諒君

昭和26年8月25日印刷 土木学会誌 定価 80円

昭和26年8月30日発行 第36巻第8号

編集兼発行者 東京都千代田区大手町2丁目4番地 中川 一 美

印刷者 東京都港区溜池町5番地 大沼 正 吉

印刷所 東京都港区溜池町5番地 株式会社 技報堂

東京都中央局区内千代田区大手町2丁目4番地 電話和田倉(20)3945番

発行所 社団法人土木学会 振替東京16828番